

- ★ かなりの高温、カメムシ類の発生に注意！
- ★ 4月20日定植の「ふさおとめ」で7月5日頃から出穂の見込み！

1 君津地域の生育概況

6月中旬以降、平年よりも気温が高く、日照時間は多く推移しており、降水量は少ない状況です。

4月26日に移植した「コシヒカリ」は6月23日頃、4月27日に移植した「粒すけ」は6月24日頃に幼穂形成期を迎えています。いずれの品種も水が必要な時期となっています。今後2週間は気温がかなり高いと予想されるため、湛水管理を行い、高温対策に努めましょう。

管内の水田でも、すでにカメムシ類の発生が見られます。今後、出穂期を目安に、適期に薬剤散布を行いましょう。また、周囲の水田と出穂時期が異なる早植え、早生、晩生品種でカメムシ類が集中して飛来することが予想されるため、注意が必要です。

2 生育調査ほの幼穂形成期の調査結果 ※

品種		田植日	坪当たり 植付株数	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/㎡)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R7年	4/20	51	10.9	57	34.7	531	43.0
	平年値	4/19	52	10.8	56	35.7	561	42.4
	平年比	+1	98%	+0.1	101%	97%	95%	101%
ふさこがね (木更津市)	R7年	4/20	50	10.8	54	35.3	534	41.6
コシヒカリ (君津市)	R7年	4/26	52	11.4	67	30.7	480	31.0
	平年値	4/24	51	10.9	68	32.2	502	37.2
	平年比	+2	101%	+0.5	98%	95%	96%	83%
粒すけ (君津市)	R7年	4/27	54	12.4	61	27.2	445	34.7

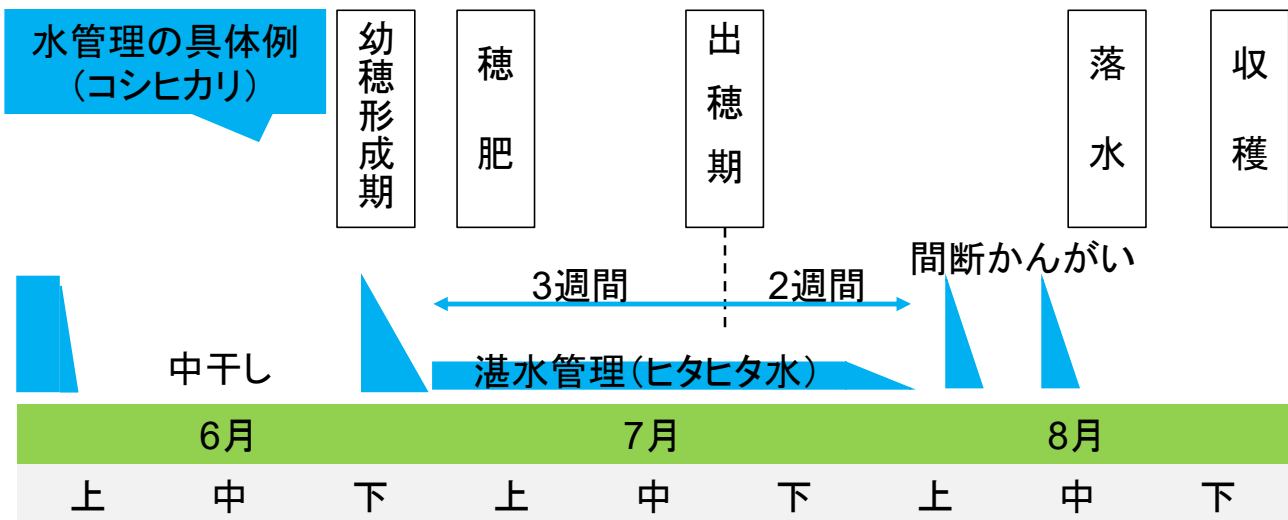
※品種ごとに調査日が異なります。「ふさおとめ」は6月12日、「ふさこがね」は6月13日、「コシヒカリ」は6月23日、「粒すけ」は6月24日に調査した結果になります。

※平年値について、「コシヒカリ」は令和2～5年の平均、「ふさおとめ」は令和3～5年の平均です。「ふさこがね」は昨年度から、「粒すけ」は本年度から調査地点を変更しているため、本年度のデータのみの記載となります。

3 これからの管理のポイント

① 今後の水管理について

出穂期3週間前から出穂期2週間後までは「湛水管理」を行います。その後は間断かんがいを行い、落水は出穂後25日以降に行いましょう。梅雨明けはまだですが、晴れの予報が続きます。登熟期の水不足は、減収と、乳白米等の白未熟粒の発生による品質低下の原因になります。かけ流し等には注意し、限られた水資源を有効利用しましょう。



② イネカメムシ、斑点米カメムシ類の防除

イネカメムシによる不稔発生防止を目的として、成虫が侵入する出穂始め～出穂期（出穂直後から4～5割の穂が出穂した時期）を目安に薬剤散布を行いましょう。

他の斑点米カメムシ類については、出穂期15日後を目安に薬剤散布を行いましょう。出穂期前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の2週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。

品種	植付時期	出穂期予測（※）
ふさおとめ	4月20日	7月5日
ふさこがね	4月20日	7月6日
コシヒカリ	4月20日	7月14日
	5月1日	7月20日
粒すけ	4月20日	7月12日

※出穂期は水稻生育予測システム「でるた」（アメダス木更津 6月30日時点）を基に予測

③ 主要病害の防除

気象庁の1か月気温予報では、今後の気温が「高い」と予測されており、高温で発病が助長される紋枯病については多発する可能性があるので注意してください。

○いもち病：止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

○稲こうじ病：穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

○紋枯病：茎数が多いと発生しやすく、葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。特に、飼料用米専用品種では発生が多く見られますので、注意しましょう。

※ 次号は「12月上旬」発行予定